

提出日 2022 年 8 月 24 日

## 長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	担当部署 国際連携機構
-----------------------	---------------	---------------	----------------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑳ (旧・中期計画:大学の世界展開力強化事業) 海外派遣プログラムの開発・運営	2013 年度	2023 年度	必要なし	不要
<b>内容</b>				
<p><b>目的</b></p> <p>文部科学省2011年度「大学の世界展開力強化事業」による支援を活用し、カナダの協定大学と共同で構築・運営している世界市民リーダーズ育成のための協働教育プログラム『クロス・カルチュラル・カレッジ』を継続して運営する。同プログラムで構築した枠組みを通じて、優秀な留学生の受入拡大、学生の海外派遣の拡充、本学学生の多文化共生能力の涵養および英語学習意欲の喚起、英語による教育プログラムの拡充、教職員の国際性向上、海外拠点の活動強化等を総合的に実現し、本学国際化の飛躍的な進展をはかる。2016年度以降も、カナダ3大学(2020年度以降はウエスタン/キングス大学を加えた4大学)と一層の連携を図りながら、カナダ研究の日本の拠点校として、継続的に実行可能な継承プログラムを構築する。</p> <p><b>内容</b></p> <p>文部科学省2011年度「大学の世界展開力強化事業」に採択された「日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム『クロス・カルチュラル・カレッジ』(CCG)を、構想調書に従って構築・運営する。財政支援が終了となる2016年度以降については、カナダの3大学(同上)と連携を図りながら、3大学(同上)およびプログラム参加学生に対して負担増を求めつつ、実行可能かつ質を保証した継承プログラムを構築し、安定的に運営する。</p> <p>また、他大学にも開かれたプログラム作りを目指し、本学が 2016 年度より 3 年間議長校及び事務局を務める日加戦略的留学生交流促進プログラムの日本コンソーシアム加盟大学の学生にもプログラムを開放するほか、カナダ側の参加枠においては本学の海外協定校からの受入れ交換学生にもプログラムへの参加を認めることで、より多様性のある学習環境を整え、本学の多様な国際プログラムの中でも高度かつ実践的な融合プログラムとして位置づける。</p> <p>なお、従来通り、カナダ側の学生については、短期学生交換プログラムの枠組みで受入れを行い、本学学生の交換留学派遣枠として活用する仕組みを継続する。</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	Certificate Program (CP)修了者数	計画に沿った継承プログラムの運営状況 日加学生の協働が伴う実践的な科目を中心とする所定の16単位を修得し、かつ、TOEIC820点(または、TOEFL-ITP580点、TOEFL-iBT92点、IELTS6.5、英検1級)以上の英語能力をクリアした学生が修了となるCPの修了者数。
指標2	MS 特別プログラム「クロス・カルチュラル・スタディーズ(CCS)」修了者数	計画に沿った継承プログラムの運営状況 留学・海外研修が伴う科目や外国人学生を迎えて日本で活動する科目、英語をインテンシブに学ぶ科目である『MS 特別プログラム専用対象科目(16単位)』と日加学生の協働が伴う実践的な科目を中心とする『CCC 修了証プログラム専用対象科目(16単位)』の計32単位を修得した学生が修了となるCCSの修了者数。
指標3	TOEIC820点相当以上の英語能力をクリアした学生数	計画に沿った継承プログラムの運営状況 CPの修了要件となるTOEIC820点(または、TOEFL-ITP580点、TOEFL-iBT92点、IELTS6.5、英検1級)以上の英語能力をクリアした学生数。
指標4	TOEIC680点相当以上の英語能力をクリアした学生数	計画に沿った継承プログラムの運営状況 CPの参加要件および『CCC 修了証プログラム専用対象科目』の履修要件であるTOEIC680点(または、TOEFL-ITP530点、TOEFL-iBT71点、IELTS5.5、英検準1級)以上の英語能力をクリアした学生数。
指標5	関西学院大学からのプログラム参加者	計画に沿った継承プログラムの運営状況 関西学院大学からのプログラム(コア科目)参加者数。
指標6	カナダの大学からのプログラム参加者	計画に沿った継承プログラムの運営状況 カナダの大学からのプログラム(コア科目)参加者数。

## 目標1&lt;指標1&gt; Certificate Program (GP)修了者数(累積)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標					170人	180人
実績	43人	100人	121人	147人	176人	195人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	190人	200人	210人	220人		
実績	204人	228人				

## 目標2&lt;指標2&gt; MS 特別プログラム「クロス・カルチュラル・スタディーズ(GCS)」修了者数(累積)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標					150人	—
実績	—	16人	36人	51人	63人	63人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—	—	
実績	63人	63人				

## 目標3&lt;指標3&gt; TOEIC820点相当以上の英語能力をクリアした学生数(累積)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標					195人	—
実績	87人	148人	167人	202人	220人	233人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	—	—	—	—		
実績	244人	267人				

## 目標4&lt;指標4&gt; TOEIC680点相当以上の英語能力をクリアした学生数(累積)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標					190人	-
実績	191人	301人	352人	398人	449人	538人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	-
目標	-	-	-	-		
実績	556人	582人				

## 目標5&lt;指標5&gt; 関西学院大学からのプログラム参加者

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	-	-	-	-	-	45人
実績	-	-	-	-	-	58人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	-
目標	45人	50人	50人	55人		
実績	23人	43人				

## 目標6&lt;指標6&gt; カナダの大学からのプログラム参加者

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標	-	-	-	-	-	30人
実績	-	-	-	-	-	54人
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	-
目標	30人	35人	35人	40人		
実績	25人	32人				

## 2. ロードマップ

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
大学の世界展開力 強化事業(カナダ) の推進	策定段階	構想調書に即した運営	最終報告 16年度以降の計画の確 定、新体制への継承と構築				
	2023年3月 末段階	—	16年度以降の計画の確 定、新体制への継承と構築	最終報告	—	—	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階						
	2023年3月 末段階	—	—				
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
2023年3月 末段階							
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
継承プログラムの 構築と運営	策定段階			別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	
	2023年3月 末段階	—	—	—	—	—	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	別途示す計画に即した運営	
	2023年3月 末段階	—	—	—	—	—	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
2023年3月 末段階							

## 3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
文部科学省補助金	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
非公開						
経費	2014年度 承認	2015年度 承認	2016年度 承認	2017年度 承認	2018年度 承認	2019年度 承認
非公開						
人員・人件費	2014年度 承認	2015年度 承認	2016年度 承認	2017年度 承認	2018年度 承認	2019年度 承認
非公開						
経費	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度以降	
非公開						

人員・人件費	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度 承認	2023年度 承認	2024年度以降
非公開					

(前期)新中期 経費・人員/人件費 [事務局記入欄]	非公開
----------------------------------	-----

#### 4. 進捗状況・得られた成果

2017年度	<p>■大学の世界展開力強化事業(カナダ)</p> <p>補助金対象事業期間を終え、CCCはさらなる発展期を迎えている。4大学からなるCCCを構成する共同運営委員会・共同教務委員会では、参加者としてカナダの他大学にも開放することを決定した。2018年度はキングスカレッジ(ウエスタン大学)と、ゲルフ大学を参加可能大学に加える予定である。関西学院の参加学生については、中期留学・交換留学を終えた学生への参加のプロモーションを積極的に行い参加者が増加している結果、参加学生の質が高まり、英語によるコミュニケーションという枠を超えて、CCCの根幹となる英語によるビジネス課題の解決、プレゼンテーションやグループワークについてより求められる成果を出せるようになってきている。2017年度実施のCCC関連の学生モビリティプログラムについても、Global Career Seminar in Japan: 関学側 15名・カナダ側 11名、Global Internship in Japan: 関学側 9名・カナダ側 9名、Global Career Seminar in Canada: 関学側 17名・カナダ側 17名、Field Study in Canadian Business: 関学生 12名、Cross-Cultural Workshop: 関学生 18名、日加あわせて述べ 108名の学生が参加し、全て問題なく運営することができた。更に、2017年度についても、本学が議長校及び事務局を務める日加戦略的留学生交流促進プログラムの日本コンソーシアム加盟大学の学生に一部プログラムを開放したが、申し込みはなかった。このように他大学にも開かれたプログラム作りに向けて、着実に前進している。また企業の協力についても、新規での協力を得た企業も多数あり、新たなリレーションの構築ができた。また、CCC参加者のTOEIC820点相当以上の英語能力をクリアした学生数についても目標であった2018年度累計195名であったが、2017年度に202名を達成し、目標値に対して非常に順調な推移を見せている。</p>
2018年度	<p>■大学の世界展開力強化事業(カナダ)</p> <p>2018年度も引き続き、本学が財政面を含めた責任主体となり、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながら、CCCの運営を通してさらに強固となったカナダの大学とのパートナーシップをベースに、質の高い協働教育プログラムを展開した。</p> <p>日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、学生からのニーズだけでなく、協力企業からの評価も高い「Global Internship」と「Global Career Seminar」を継続して提供。具体的には、春学期集中(8月)に「Global Career Seminar in Japan」及び、「Global Internship in Japan」、秋学期集中(2月)に「Global Career Seminar in Canada」を実施した。「Global Internship in Japan」では、従来の民間企業に加えて、非営利団体等のインターンシップ先を新たに開拓し、学生の幅広いニーズに対応できるようにした。なお、2016年9月からは、カナダ大使館の前大使であるクラグストン氏をCCCのカレッジ長として迎え入れており、カナダのビジネスについての深い知識、長年のアジア・日本における外交経験を生かし、上記科目でも積極的に学生の指導にあたっていただいた。また、「Global Internship in Canada」については、本学教員の人員体制の面から2016年度以降の実施を断念したが、その代わりに2016年度に新設した「Field Study</p>

	<p>in Canadian Business(本学学生同士がペアとなり、カナダでのインターンシップを行うプログラム)」を、2018 年度も秋学期集中科目(2 月)として引き続き実施した。この科目はコア科目ではないが、Certificate Program (CP)の選択科目の一つとして位置付けており、海外でインターンシップを行いたいという学生のニーズにも合致している。それぞれのプログラムの参加人数は、Global Career Seminar in Japan: 関学側 22 名・カナダ側 13 名、Global Internship in Japan: 関学側 15 名・カナダ側 15 名、Global Career Seminar in Canada: 関学側 23 名・カナダ 14 名、Field Study in Canadian Business: 関学生 12 名、Cross-Cultural Workshop: 関学生 11 名であり、日加あわせて述べ 125 名の学生が参加し、全て問題なく運営することができた。なお、カナダ側参加者の中には、コア科目の参加大学として新たに加えたキングスカレッジ(ウエスタン大学)の 3 名も含まれている。</p>
2019 年度	<p>■大学の世界展開力強化事業(カナダ)</p> <p>2019 年度も引き続き、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながらカナダの大学との協働プログラムを実施した。</p> <p>2011 年度に開始した CCC が 10 周年を迎えるにあたり、2020 年 2 月にカナダ・トロントにて記念事業(シンポジウム)を行った。本記念事業では、在トロント日本国総領事館や国際交流基金の後援をいただくとともに、マウント・アリソン大学の学長をはじめとする CCC 参加大学の教職員が登壇し、CCC の今後のさらなる発展に向けて活発な意見交換がなされた。また、CCC を協働で運営する 3 大学のほか、カナダの協定校及び例年トロントで実施している「Global Career Seminar in Canada」や「Field Study in Canadian Business」の協力企業・団体等から合計 150 名程の関係者に参加いただき、これまでの本学とカナダの交流の歴史や日加が協働して運営する CCC を継続していく意義について再確認する機会となった。</p> <p>日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、2019 年度も引き続き「Global Internship」と「Global Career Seminar」を継続して提供した。具体的には、春学期集中(8 月)に「Global Career Seminar in Japan」及び、「Global Internship in Japan」、秋学期集中(2 月)に「Global Career Seminar in Canada」を実施した。「Global Career Seminar in Japan」では、従来の協力企業に加えて、カナダに本部を置く外資企業を新たに開拓する等、日加の学生ニーズに対応したりレシーションを構築することができた。「Global Career Seminar in Canada」では、キングスカレッジ(ウエスタン大学)からビジネスに知見の深い教員を招き、プログラムの指導面に携わっていただいた。なお、キングスカレッジ(ウエスタン大学)は、2020 年度より CCC の正式な参加大学として加入したい意向を表明した。</p> <p>それぞれのプログラムの参加人数は、Global Career Seminar in Japan: 関学側 23 名・カナダ側 19 名、Global Internship in Japan: 関学側 12 名・カナダ側 12 名、Global Career Seminar in Canada: 関学側 23 名・カナダ 23 名、Field Study in Canadian Business: 関学生 10 名、Cross-Cultural Workshop: 関学生 15 名であり、日加あわせて述べ 137 名の学生が参加し、全て問題なく運営することができた。</p>
2020 年度	<p>■大学の世界展開力強化事業(カナダ)</p> <p>2020 年度も引き続き世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながらの協働プログラム運用を目指したが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により大幅な計画の変更を余儀なくされ、各種プログラム催行中止が決定された。具体的には、例年実施されていた「Global Internship(春学期集中:8 月)」および「Global Career Seminar in Japan(春学期集中:8 月)」が中止となった。また「Field Study in Canadian Business(秋学期集中:2 月)および Cross-Cultural Workshop(秋学期集中:2 月)も中止となったが、コロナ禍に伴う世界的なオンライン留学普及の流れに伴い、「Global Career Seminar in Canada(秋学期集中:2 月)」についてはオンラインにて実施した。主に Zoom を用いて行った本プログラムは、日本とカナダの時差等に配慮しながら同期・非同期のシステムを使い分けて実施した。プログラムの参加人数は、関学生側 23 名・カナダ 25 名であり、初のオンライン実施であったが大きな問題無く運営することができた。なお、本年度から CCC の正式な参加大学として加入したキングスカレッジ(ウエスタン大学)からは 3 名の参加があった。(なお、Cross-Cultural Workshop(秋学期集中:2 月)についてもオンライン化の上募集を行ったが、最少催行人数を確保することが困難となり、やむを得ず催行中止を判断した)大幅にプログラム数、参加者数を減らした本年度であるが、一方でオンライン化の基礎を作り、2021 年度へ活かすことのできた時期でもあった。</p>

2021 年度	<p>■大学の世界展開力強化事業(カナダ)</p> <p>世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながらの協働プログラム運用を目指したが、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、派遣・受入れともに日加学生のモビリティを伴うプログラムは実施することができなかった。しかし、前年度にオンラインプログラムを実施した運営ノウハウを生かし、8月には Global Career Seminar in Japan を、2月には Global Career Seminar in Canada をオンラインにて実施した。各プログラムの参加者数は下記のとおりであり、CCC のキーコンセプトである「寝食をともに」という点は実現できなかったものの、いずれのプログラムにおいても、コロナ前の対面実施時とほぼ同数の学生に対して、国際的協働能力を実践的に養成する機会を提供することができた。また、オンライン実施であるということを踏まえ、事前講義と集中講義期間の講義内容を見直したことにより、各学生がよりグループワークに貢献できる形となり、参加学生の満足度も高かったことは大きな成果と言える。2022年度は対面でのプログラム実施を予定しているが、同様の形を採用することにより、対面実施の良さを生かしつつ、さらに教育効果の高いプログラムの提供を目指していきたい。</p> <p>Global Career Seminar in Japan 参加者数:34名(関学側19名、カナダ側15名) 協力企業・団体数:3機関</p> <p>Global Career Seminar in Canada 参加者数:41名(関学側24名、カナダ側17名) 協力企業・団体数:3機関</p>
---------	---

## 5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<p>2019 年度以降は、「中期総合経営計画にて継続希望」</p> <p>2019 年度も引き続き、本学が財政面を含めた責任主体となり、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながら、CCC の運営を通してさらに強固となったカナダの大学とのパートナーシップをベースに、質の高い協働教育プログラムを展開していく。</p> <p>日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、学生からのニーズだけでなく、協力企業からの評価も高い「Global Internship」と「Global Career Seminar」を継続して提供する。具体的には、春学期集中(8月)に「Global Career Seminar in Japan」及び、「Global Internship in Japan」、秋学期集中(2月)に「Global Career Seminar in Canada」を実施する。「Global Internship in Japan」では、2018 年度に引き続き、従来の民間企業に加えて、非営利団体等を派遣先とし、学生の幅広いニーズに対応できるようにする。なお、2016 年 9 月からは、カナダ大使館の前大使であるクラグストン氏を CCC のカレッジ長として迎え入れており、カナダのビジネスについての深い知識、長年のアジア・日本における外交経験を生かし、上記科目にでも積極的に学生の指導にあたっていただいている。2016 年度に新設した「Field Study in Canadian Business(本学学生同士がペアとなり、カナダでのインターンシップを行うプログラム)」を、2019 年度も秋学期集中科目(2月)として引き続き実施する。この科目はコア科目ではないが、Certificate Program (CP)の選択科目の一つとして位置付けており、海外でインターンシップを行いたいという学生のニーズにも合致している。2019年度以降は Field Study in Canadian Business の学生の定員を増やし、Global Career Seminar in Canada を引き続きの受講枠を増加させ、学生の更なる能力の向上を進めたい。そのためには、Field Study in Canadian Business でのカナダの受け入れ企業の開拓が必須であり、新規受け入れ企業訪問と、参加対象となる北米大学へのプロモーションのための出張費を増額して申請したい。</p> <p>CCC 関連の学生モビリティプログラムの年間募集人数については、日本(関学)側は 109 名、カナダ側は 65 名、年間合計 174 名とする。なお、CCC を他大学にも開かれたプログラムとするべく、日加戦略的留学生交流促進プログラムの日本コンソーシアム加盟大学、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学等にも一部のプログラムの参加を認め、積極的に広報を行う。カナダ側の参加者枠についても、カナダ3大学の学生を優先的に募集するが新たに設けた参加者枠を、関学の協定校の学生(GCS は北米の、GIJ をカナダの協定校の学生)に開放することで、プログラムの安定的運営、かつより多国籍な環境でのプログラム充実・発展を目指す。また、引き続き CCC の内定が決定した4年生の CCC OB/OGを相談者に、CCC プログラム受講者向けのキャリアセミナーも開催する予定である。CCC 参加企業への就職も増加傾向にあるが、伊藤忠商事等へも3年連続で CCC 参加者から継続して内定がでており、CCC プログラムの認知度が企業側にも浸透してきている。今後もさらに優秀な卒業生を輩出し、好循環を継続していきたい。</p>
2020 年度	<p>2020 年度も引き続き、本学が財政面を含めた責任主体となり、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながら、CCC の運営を通してさらに強固となったカナダの大学とのパートナーシップをベースに、質の高い協働教育プログラムを展開していく。日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、前年度同様、春学期集中(8月)に Global Career Seminar in Japan および Global Internship in Japan、秋学期集中(2月)に Global Career Seminar in Canada を実施する。また、コア科目以外のモビリティを伴う科目として、Field Study in Canadian Business と Cross-Cultural Workshop を実施する。</p> <p>2020 年度の大きな課題として、関西圏における Global Internship in Japan の協力企業確保が挙げられる。例年、協力企業の半数以上が東京を中心とした関東圏の企業であるが(2019 年度は 11 企業中 7 企業が関東圏の企業)、2020 年度はオリンピック・パラリンピック開催期間中にプログラムが実施されるため、関東圏でインターンシップを行う際に必要な宿泊先の手配が困難であると予想される。また、手配ができたとしても非常に高額となるうえ、来日するためのフライト代も高騰するであろうことも併せて考えると、カナダ側学生の参加者数を確保するという観点からも、比較的安価に実施できる関西圏でのインターンシップが望ましい。ただし、関西圏での協力企業確保は容易ではなく、例年よりも早い動き出しが求められる。キャリアセンターとも連携のうえ、2019 年度中の協力企業内定を目指す(キャリアセンターの重点企業への内定実績が多数あることから、キャリアセンターとしても、CCC 参加学生に注目している)。</p> <p>CCC 関連の学生モビリティプログラムの年間募集人数は、日本(関学)側は 94 名、カナダ側は 54 名、年間合計 148 名とする。上述のとおり、Global Internship in Japan については関西圏での実施を目指すため、募集定員(受入企業数)を制限するものの、その他のプログラムについては、前年度と同じ募集人数としており、2020 年度中のコア科目参加、ならびに CP 修了を目指す学生にとって、不利益がないようにする。また、日本側に関しては、日加戦略的留学生交流促進</p>

	<p>プログラムの日本コンソーシアム加盟大学、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟大学に対して、カナダ側に関しては、キングスカレッジ(ウエスタン大学)など、カナダ 3 大学以外の協定校に対して、それぞれプログラムを開放することによって、引き続きプログラムの安定的運営、かつより多国籍な環境でのプログラム充実・発展を目指す。</p>
2021 年度	<p>2021 年度も引き続き、本学が財政面を含めた責任主体となり、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながら、カナダの大学とともに質の高い協働教育プログラムを展開していく。日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、前年度同様、春学期集中(8 月)に Global Career Seminar in Japan および Global Internship in Japan、秋学期集中(2 月)に Global Career Seminar in Canada を実施する。また、コア科目以外のモビリティを伴う科目として、Field Study in Canadian Business と Cross-Cultural Workshop を実施する。</p> <p>2021 年度の課題としては、前年度同様に関西圏における Global Internship in Japan の協力企業確保が挙げられる。例年、協力企業の半数以上が東京を中心とした関東圏の企業であるが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、オリンピック・パラリンピックが 2021 年 8 月に延期されたため、関東圏でインターンシップを行う際に必要な宿泊先の手配が困難であると予想される。プログラムを実施する場合にも COVID-19 の感染拡大防止措置が求められる可能性があり、宿泊費やカナダから来日するためのフライト代が高騰することであろうことも併せて考えると、カナダ側学生の参加者数を確保するという観点からも、比較的安価に実施できる関西圏でのインターンシップが望ましい。</p> <p>CCC 関連の学生モビリティプログラムの年間募集人数は、前年度同様に日本(関学)側は 94 名、カナダ側は 54 名、年間合計 148 名とする。上述のとおり、Global Internship in Japan については関西圏での実施を目指すため、募集定員(受入企業数)を制限するものの、その他のプログラムについては、前年度と同じ募集人数とする。なお、カナダ大使館の前大使であるクラグストン氏には 2021 年度以降も引き続き CCC カレッジ長として上記科目にて積極的に学生の指導にあたっていただく。また、2020 年度のキングスカレッジ(ウエスタン大学)の正規加入に伴い、2 月の Global Career Seminar in Canada では現地教員に学生の指導に携わっていただく。新規大学の参入により、さらなる指導面の安定かつより多国籍な環境でのプログラム運営を目指す。</p> <p>&lt;状況更新(2021.7.1 現在)&gt;</p> <p>COVID-19 の影響を鑑み、Global Internship in Japan、Field Study in Canadian Business については催行中止が決定した。Global Career Seminar in Japan および Global Career Seminar in Canada は実施形式を対面からオンラインへ変更することも併せて決定した。従って、Global Internship in Japan において懸念されていた関西圏における協力企業確保、宿泊先手配、フライト代の高騰などの諸問題については一応の解決を見た。Global Career Seminar in Japan の参加者は日本(関学)側が 19 名、カナダ側が 15 名、合計 34 名であり、今後の Global Career Seminar in Canada の募集が待たれる。</p>
2022 年度	<p>2022 年度も引き続き、本学が財政面を含めた責任主体となり、世界展開力強化事業の目的・趣旨を継承しながら、カナダの大学とともに質の高い協働教育プログラムを展開していく。日加学生の協働が伴う実践的なコア科目については、前年度同様、春学期集中(8 月)に Global Career Seminar in Japan および Global Internship in Japan、秋学期集中(2 月)に Global Career Seminar in Canada を実施することを検討する。また、コア科目以外のモビリティを伴う科目として、Field Study in Canadian Business を実施することを検討するが、いずれも新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を慎重に検討し、対面での実施が困難と判断される場合においてはオンラインでの実施、または催行中止の可能性も排除せず柔軟に対応する。</p> <p>2022 年度の課題としては、①対面プログラム復活後のオンラインプログラムの位置付け検討、②CP 各種プログラムの出願者数回復が挙げられる。世界的なワクチン接種事情等により今後国・地域間の物理的な移動制限が徐々に緩和していくと推察されるが、再び対面でのプログラムが実施可能となった時、オンライン形式のプログラムには需要・必要性があるのかを判断する必要がある。急速に世界に広まったオンライン留学プログラムについては、物理的に留学をする金銭的、時間的余裕のない学生についても国際交流・国際教育に接する機会を与えたと一定の評価があり、今後もある程度の割合で存続していくと推察される。改めて本事業のオンラインプログラムに対する姿勢を整理し、今後の中・長期的な運営手法を検討していく必要がある。</p>

	<p>また、COVID-19の影響により出願者数・修了者数が大幅に減少した Certificate Program についても今後の対応が必要である。出願者数の減少にはキャンパス閉鎖に伴う広報効果の減少、関学における授業のオンライン移行に伴う学生の混乱など複数要因があると思われるが、COVID-19 が収束に向かう未来を見据え、今後の広報体制、実施体制を検討する必要がある。</p> <p>CCC 関連の学生モビリティプログラムの年間募集人数は、COVID-19 による影響が発生する以前の水準を基に、日本(関学)側は 109 名、カナダ側は 65 名、年間合計 174 名とする。なお、カナダ大使館の前大使であるクラグストン氏には 2022 年度以降も引き続き CCC カレッジ長として上記科目にて積極的に学生の指導にあたっていただく。さらなる指導面の安定かつより多国籍な環境でのプログラム運営を目指す。</p>
2023 年度	<p>2023 年度の方向性としては、対面型でのプログラムを重視し、全てのコア科目を対面で実施することを目指す。コロナ禍で実施したオンラインでの Global Career Seminar は時差などの制限がある中、学生の満足度も上々で一定の成果が見られたが、2021 年度秋学期以降、他のオンラインプログラムにおいて、出願者の大幅な減少が散見されることを考えると、学生のニーズは実渡航型のプログラムへと戻って来ていると考えられる。また、CCC 設立当初からのキーコンセプトである「日加学生の寝食を共にしながらの協働学習」を実現するためには、対面型での実施は必須である。以上の理由により、対面型とオンライン型を並行して実施するのではなく対面型に注力し、オンライン型はあくまでも対面型が実施できない場合の代替であると位置づける。もちろん、オンラインプログラムを実施したことにより得られた知見やノウハウは、対面型授業の事前に実施予定のオンライン授業にも積極的に取り入れ、より教育効果の高いプログラムへと進化させる。</p> <p>課題としては、コア科目の協力企業・団体の確保が挙げられる。2023 年度における指標 5(関学生 55 人)および指標 6(カナダ側学生)40 人を達成するためには、全コア科目の規模をコロナ前の 2019 年度の水準まで戻す必要があり、それに伴い多くの企業・団体の協力が不可欠である。特に、日加学生から最も人気のある Global Internship については、受入先として 10 社程度を確保しなければならない(2019 年度実績で 11 社)。コロナ禍において各社の状況も大きく変化し、インターンシップの受入れが困難になっている可能性もあるため、新規開拓の可能性も含め、早めの動き出しが必要と考える。また、コロナ禍において在宅勤務の導入など、各社の働き方も変わっていると思われるため、インターンシップ期間中に一部担当者が会社に不在の日が発生することや、学生が遠隔でインターンを行う日が発生することなどをあらかじめ想定し、本学としても企業の状況に合わせた柔軟な対応(学生への事前説明も含む)が求められる。なお、2022 年度に引き続き広報には力を入れていきたい。特に「中長期留学の帰国後に参加する上位プログラム」としての位置づけを学生の間で再定着させるべく、交換留学、中期留学、中期インターンシップ参加者への留学前・留学中・帰国後のアプローチを徹底し、質・量ともに十分な参加者を確保し、CCCプログラムの安定的な運営と質の向上を目指したい。</p>

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2013 年度	<p>雇用雑費と消耗品費について承認。これ以上の経費負担が必要となった場合は、妥当性を判断したうえで、予算外申請を認める。</p> <p>コーディネーター教員(特別契約教員)の配置は 16 年度以降とし、当事業の中間評価の結果と併せて、14 年度中に判断する。</p> <p>(※基本方針は 3/6 学院総合企画会議で修正承認)</p>
2014 年度	<p>(2014.11.20 承認)</p> <p>15 年度より要望のあるコーディネーター教員について承認。ただし、人件費については人事部と要調整。その採用時期については大学執行部の意向を優先する。</p> <p>15 年度に要望のある講師料・謝金及び 14 年度の消耗品費(継続)は、承認するが、その必要性を含めて財務部の査定を受けることとする。</p> <p>(2015.2.19 承認)</p> <p>15 年度の公務出張費及びその他手数料等の新たな経費増を承認。</p>

2015 年度	2016 年度以降も中期計画として取り扱う。 契約職員 2 名については、国際連携機構事務部の人員体制見直しの中で、実態に合わせて人事部が検討する。
2016 年度	2019 年度まで中期計画として取り扱う。 2020 年度以降は、経常プログラムとして推進できるよう検討すること。 諸経費については承認するが、別途、財務部の査定を受けることとする。 VIP 対応等で諸経費が膨らむ場合は、都度、財務部と調整すること。 コーディネーター教員(継続)については、2017 年度で任期が切れるため、後任人事を進める。
2017 年度	経費については、別途、財務部の査定を受けることとする。経常プログラムとして推進できるよう検討すること。
2018 年度	CCC はプログラム成果に対する評価が高いためプログラム定員を 2015 年度並みまで戻すことについては承認します。そこで講師料、謝金は 2015 年度並みで計上しました。そのほかの項目については 2018 年度並みとします。
2019 年度	—
2020 年度	—
2021 年度	講師料・謝金については、前年度同額で予算化しています。実施計画が明確になり必要があれば、申請額まで、予算外申請で対応します。 その他については、前年度同額で予算化しています。実施計画が明確になり必要があれば、申請額まで、予算外申請で対応します。 契約職員 CCC 担当については、契約職員の人件費額は他と同じ額で計上しています。
2022 年度	—

## 7. Total Review の結果

### 【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2011 年度から継続しているカナダの大学と共に、質の高い協働教育を実施している。</li> <li>・コロナ対応として、COIL 型にも着手しており、2021 年度に実施していく。</li> </ul>	継続 ・ 廃止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の特長であるカナダの大学との共同プログラムの強化・拡充</li> </ul>

### 【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	